

感動の場

『灯台と犬』

1976 年 小川原 脩 画



夜空とも雨雲ともつかない群青色が、地平線から天空まで塗り込められています。群れとなってこちらへと進んでくる黒い犬たちは、どこからやってきたのでしょうか。視線を画面の奥へと向けると、離れたところに白い灯台と、うっすらと浮かびでる曲がりくねった土の道。縦 116 ㌢、横 91 ㌢ほどの画面ではありますが、そこに広がる原野は果てしなく続いているように感じられます。小川原脩が動物たちを通して、〈個〉と〈群れ〉というテーマを追求していた時期に描かれた作品のひとつです。

現在開催中のしりべしミュージアムロード共同展（7/18 ～ 9/27）・西村計雄記念美術館（共和町）会場のテーマ「青のグラデーション」にあわせ、「青」が描かれた小川原作品を貸出中です。その大半は空として表現されたものですが、明るく晴れわたった日の深い青、雪雲が覆う淡い青などのほか、季節や天候だけではなく冷静さ、不安気なさまといったモチーフとの物語性をあらわすものまで、無数の「青」が存在していることに改めて気付くことになりました。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

449 回

—高周波ミュージシャン ヒメクサキリ—

秋の涼しい風が吹くころ成虫になるキリギリスの仲間に、ヒメクサキリという虫がいます。体長と同じくらい長い触角と黄色い口、長い後脚が特徴的で、倶知安をはじめ北海道では平地から低山地にかけて日当たりの良いやや湿った草地で普通に見られます。キリギリスやバッタの仲間は植物の葉の部分を食べるイメージが強いと思いますが、ヒメクサキリは成虫になるとイネ科植物の種子（穂）を食べるようになります。そのため、特に本州では水田の収量を減らす重要な害虫とされてきたとともに、長野県などでは「アブライナゴ」という名前と呼ばれ、佃煮として食糧にされてきました。由来はそのまま、油がよく乗っていることにちなんでいるようです。

鳴き声も印象的で、オスは夜になると「ジーーーーー」と、夏のセミ（コエゾゼミなど）に似た強く長い声で鳴き、メスにアピールします。その鳴き声はとても大きく、夜の草むらでいざ探すと、音がまわりの植物や建物に反響して意外と見つけにくいこともしばしば。ヒメクサキリの鳴き声の中心周波数は 12 キロヘルツと高い周波数の音であるため、加齢とともに聞こえにくくなりやすい音といえます。私がヒメクサキリの声聞いていられるのはいつまででしょうか。皆さんも、目で、耳で探してみてください。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



草の上のヒメクサキリのオス

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「アジアへのまなざし」

小川原脩は、その画業の中で晩年の大きな転換点ともいえるアジアへの旅において、中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けました。本展では小川原脩が描いた、アジアの大地で人と動物たちが繰り広げる悠々とした時間が流れる世界を紹介します。

会 期：8 月 22 日(土)～ 11 月 15 日(日)

■第2展示室

しりべしミュージアムロード共同展「五館五色！色とりどり」

岩内・共和・倶知安・ニセコに点在する 5 つのミュージアムの共同企画展。今回は色がテーマです。

会 期：開催中～ 9 月 27 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

※いずれの回も映像ルーム（無料）で、定員 10 名

幸せアート (3)「ルノワール～世紀末の女性たち」

日 時：9 月 5 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

世界のグレートアーティスト (3)「コロー 映像の詩人」

日 時：9 月 12 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

ユネスコ世界遺産 (2)「シルクロードと東西交渉」

日 時：9 月 19 日(土) ① 14 時、② 15 時 お話し：柴 勤（館長）

■ミュージアム・コンサート

「トリオ・ダンシュ・ポロゴ～木管の響きを秋風に乗せて」

日 時：9 月 26 日(土) 11 時～ 11 時 50 分

出 演：トリオ・ダンシュ・ポロゴ（岡本千里・北郁実・濱田奈美）
オーボエの岡本さん、クラリネットの北さん、ファゴットの濱田さんによる木管三重奏。初秋のひと時、心に染み入る木管の音色を心ゆくまでお楽しみください。

会 場：当館ロビー（無料） 定 員：30 名（予約制）

予約受付：9 月 9 日(水) 9 時から電話申込（☎ 21 - 4141）

■風土館イベント※要予約

寺子屋ミュージアム（小中学生向けイベント）「大鋸を使って木挽き体験」

機械が無かった時代は、木を切るのはすべて手作業で行われていました。大鋸を使って木板を切り出してみよう。また、昔のせんべい焼器を使って「せんべい焼き体験」も行います。

日 時：9 月 12 日(土) 13 時 30 分～ 16 時 定 員：10 名（先着順） 場 所：倶知安風土館

講 師：森脇友行、小田桐亮（風土館職員） 参加費：無料

ふるさと探訪「秋の植物のちがいを見分けよう」

日 時：9 月 26 日(土) 9 時～ 13 時 定 員：8 名（先着順） 集合場所：百年の森公園（字八幡）

講 師：藤田豊さん（北方山草会会員） 参加費：250 円（保険代）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観 覧 料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（ 50 円）

倶知安風土館 ☎ 22-6631

観 覧 料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は 9 時～ 17 時

入館は 16 時 30 分まで

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

9 月の休館日 毎週火曜日、23 日(22 日(火)は開館)

美術館のみ 28 日～ 10 月 2 日

（展示替えのため）

私の隠れ家、教えます！

久しぶりの隠れ家シリーズ。以前に、北広島の森の中に佇む「黒い森美術館」や厚田の山奥にあるロマンチックな「チニタ」など、野趣に富むギャラリーを紹介したことがあります。

今回の「ギャラリー門馬」もまた、自然を見事に取り込んだギャラリー。豪邸やしゃれたレストランが点在する藻岩山麓の一角にある ANNEX（別館）は、普通の住宅の廊下をリニューアルしたもの。15 ㌢ほど続く真っ白な細長い空間を抜けてテラスに立つと、目の前には驚くほど豊かな自然が。まるで、ギャラリー自体が環境と調和した現代美術の作品のようなのです。

館 長 柴 勤